

若者の活気溢れる街づくり

～人口流出に歯止めをかける～

チーム名：HAT

太田 愛、辻 滉章、服部 浩大、東島 ちえみ、藤岡 観月



目次

- 湖南省の現状
- 政策課題と目標
- 企画提案
- まとめ

湖南省の現状

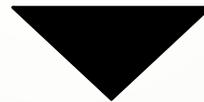


湖南省の現状

- 県内最大級の工業団地があり移住者が多い
- 平均年齢は滋賀県内19市町の内、5番目に若い

(令和2年国勢調査より)

しかし！



- 若い世代の流出人口が流入人口を上回っており、若者が流出している！

5歳階級別人口移動の推移

	1985年	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年
0～4歳→5～9歳	567	588	296	-85	-128	-170	-19
5～9歳→10～14歳	351	323	152	51	7	-49	-16
10～14歳→15～19歳	255	254	121	-37	12	-50	66
15～19歳→20～24歳	190	266	245	-80	-100	37	-18
20～24歳→25～29歳	467	603	750	407	163	-41	-159
25～29歳→30～34歳	728	724	576	52	-28	-318	-247
30～34歳→35～39歳	555	564	368	82	-11	-415	-118
35～39歳→40～44歳	266	381	211	-15	-19	-141	-30
40～44歳→45～49歳	148	221	170	-23	13	-122	-14
45～49歳→50～54歳	141	198	129	-36	-15	-79	-72
50～54歳→55～59歳	82	99	33	-48	54	-114	-63
55～59歳→60～64歳	92	118	11	-18	2	-144	-84
60～64歳→65～69歳	62	56	26	20	-40	-59	-74
65～69歳→70～74歳	46	48	52	41	28	-9	-29
70～74歳→75～79歳	65	40	57	4	47	36	-20
75～79歳→80～84歳	1	4	16	73	56	30	-8
80～84歳→85～89歳	2	1	26	69	19	20	34
85歳～→90歳～	5	10	1	39	51	39	5

若者の流出！

湖南省総合計画より抜粋

データで示すまちの現状

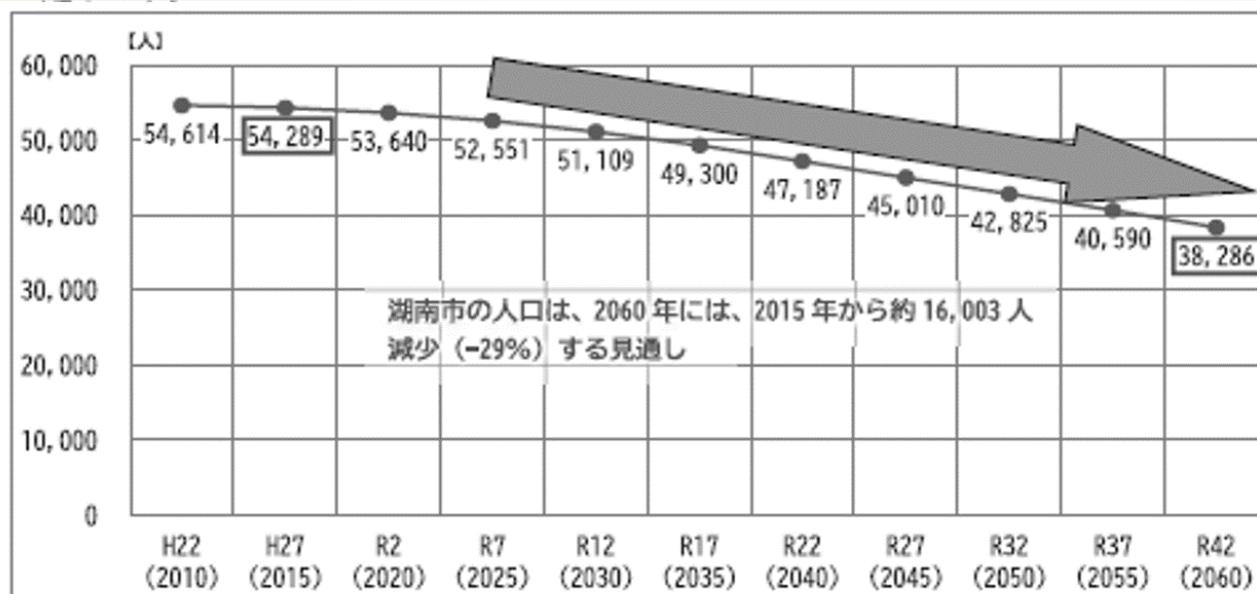


図 湖南省の将来人口の見通し 資料) 内閣府(国立社会保障・人口問題研究所*準拠方式)

～人口減少が湖南省に及ぼす影響の例～

- 市内の消費の縮小
- 学校の児童数の減少、空き教室の増加
- 空き家、空き地の増加
- 耕作放棄地や管理放棄山林の増加
- 地域コミュニティの弱体化
- 一人世帯の増加、無縁社会の深刻化
- 税収の減少、行政サービスの低下、公共施設の統廃合

政策課題と目標



(湖南省の現状)
湖南省は工業団地があることによる移住者が多く、平均年齢は他市と比べて比較的若い。しかし、若い世代の流出人口は流入人口を上回っており、若者が流出している。

(問題・原因)

(要因)

暮らしにくい環境

車が不可欠

交通の便が悪い

電車・バスの本数が少ない

商業施設が少ない

(要因)

住み続けたいと思える魅力の不足

PR不足

若者向けの使節が少ない

公共交通機関が少ない

湖南省の魅力を発信する人が少ない

SNSなどのPRが出来ていない

新しい施設が少ない

利用客の需要がない

湖南省の魅力に気づけていない

(要因)

少子高齢化が進んでいる

不妊治療の保障不足

若い世代への保障がない

結婚

出生率の低下

工場勤務者の代勤務

晩婚化

子育てしにくい働き方

(問題・原因)

大学進学

(要因)

塾が少ない

市内に大学がない

子どもが少ない

(要因)

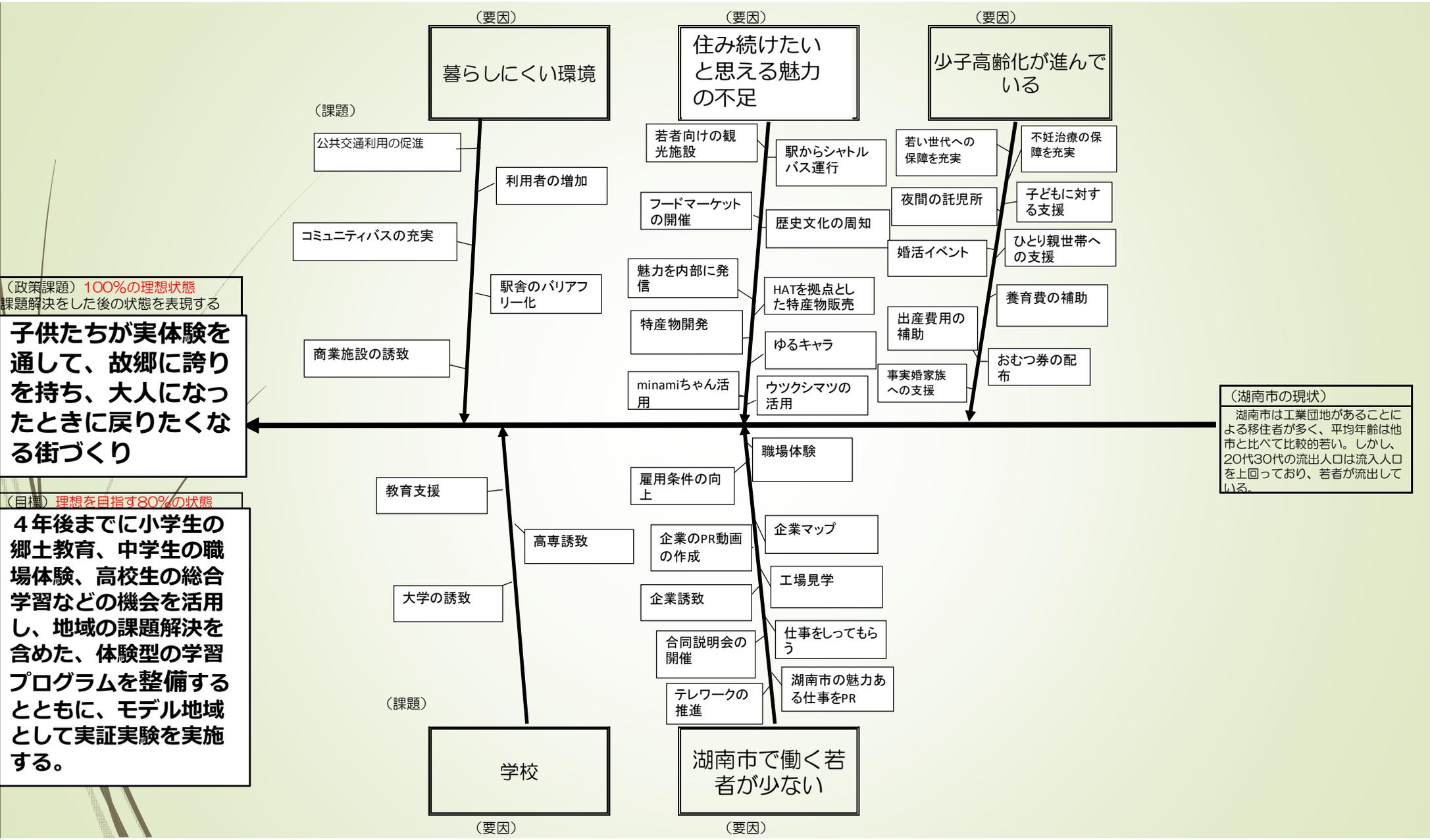
湖南省で働く若者が少ない

若者が働きたいと思える職場がない

工業系の仕事が多い

工業団地のイメージ

大企業が都会に集中



(要因)
暮らしにくい環境

(要因)
住み続けたい
と思える魅力
の不足

(要因)
少子高齢化が進んで
いる

(課題)

公共交通利用の促進

利用者の増加

コミュニティバスの充実

駅舎のバリアフ
リー化

商業施設の誘致

若者向けの観
光施設

フードマーケッ
トの開催

魅力を内部に発
信

特産物開発

minamiちゃん活
用

駅からシャトル
バス運行

歴史文化の周知

HATを拠点とし
た特産物販売

ゆるキャラ

ウツクシマツの
活用

若い世代への
保障を充実

夜間の託児所

婚活イベント

出産費用の
補助

事実婚家族
への支援

不妊治療の保
障を充実

子どもに対す
る支援

ひとり親世帯へ
の支援

養育費の補助

おむつ券の配
布

(政策課題) 100%の理想状態
課題解決をした後の状態を表現する

子供たちが実体験を
通して、故郷に誇り
を持ち、大人になっ
たときに戻りたくな
る街づくり

(目標) 理想を目指す80%の状態

4年後までに小学生の
郷土教育、中学生の職
場体験、高校生の総合
学習などの機会を活用
し、地域の課題解決を
含めた、体験型の学習
プログラムを整備する
とともに、モデル地域
として実証実験を実施
する。

教育支援

高専誘致

大学の誘致

(課題)

(要因)
学校

雇用条件の向
上

企業のPR動画
の作成

企業誘致

合同説明会の
開催

テレワークの
推進

職場体験

企業マップ

工場見学

仕事をしてもら
う

湖南省の魅力あ
る仕事をPR

(要因)
湖南省で働く若
者が少ない

(湖南省の現状)
湖南省は工業団地があること
による移住者が多く、平均年齢は他
市と比べて比較的若い。しかし、
20代30代の流出人口は流入人口
を上回っており、若者が流出して
いる。

若者の流出要因

公共交通機関の本数が少ない



娯楽が少ない



大学進学



都会志向





方針の決定

- ➡ 方針 1 : 市内外への魅力発信
- ➡ 方針 2 : UIJターンの促進
- ➡ 方針 3 : 郷土愛の醸成

政策課題

100%の理想状態

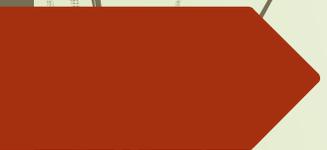
子供たちが実体験を通して、
故郷に誇りを持ち、
大人になったときに戻りたくなる街づくり

目標

理想を目指す80%の状態

4年後までに小学生の郷土教育、
中学生の職場体験、高校生の総合学習などの
機会を活用し、地域の課題解決を含めた、
体験型の学習プログラムを整備するとともに、
モデル地域として実証実験を実施する。

企画提案



総合学習とは

総合的な学習（探究）の時間

総合的な学習（探究）の時間は、変化の激しい社会に対応して、**探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成すること**を目標にしていることから、**これからの時代においてますます重要な役割を果たすものである。**

アイデアの創出

娯楽の充実

歴史文化学習

空き家の活用

湖南省で起業する
人の援助

市内事業者
との連携

SNS媒体の活用

飲食店を充実させる

企画提案

空き家を活用した体験型総合探求プログラム

- 次世代を担う高校生や大学生たちに、空き家を活用してやりたいことにチャレンジできる環境をつくる。
- まちづくり協議会などと協働でPR活動を行い、地域の賑わいづくりを後押しする。

イメージ図 (構想図)



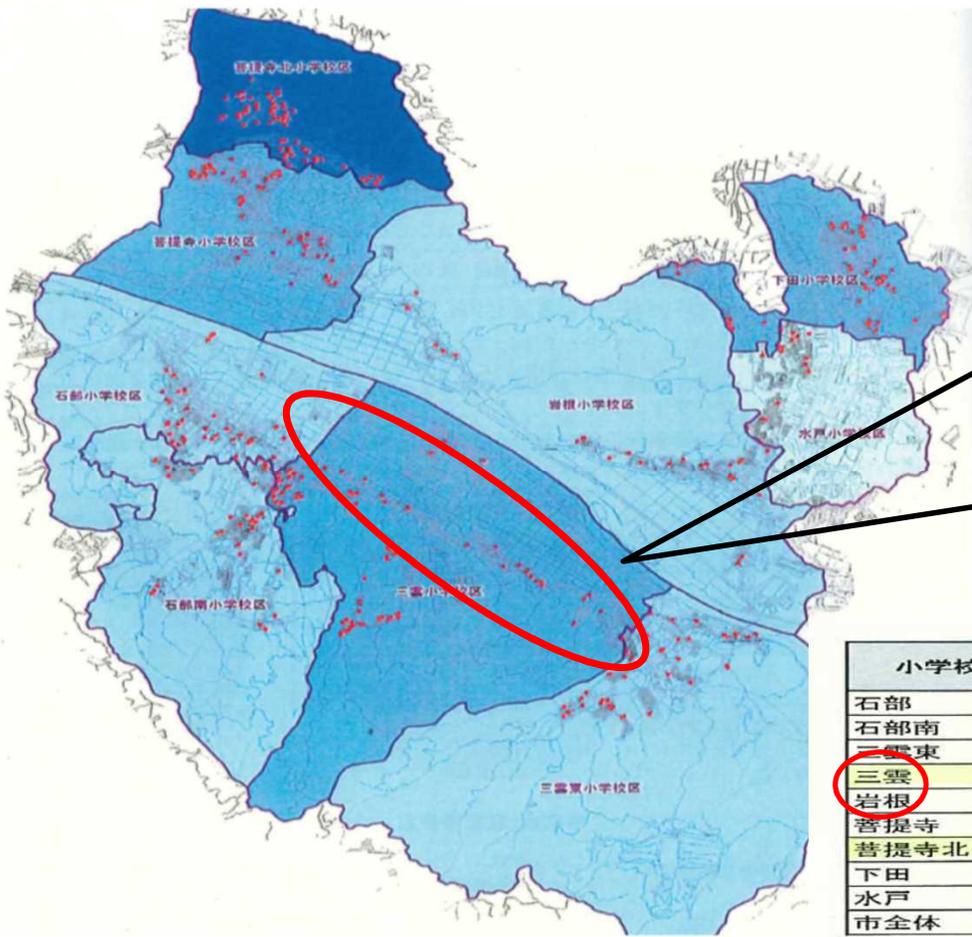
キッズニアとは？

1つのエリアの中に
眼鏡屋さんがあったり
携帯ショップがあったり



子どもたちが職業体験を
できるまち

湖南省の空き家状況



小学校区名	世帯数(H28.12)	空家等	空家等/世帯数割合 (件/100世帯)
石部	2,826	43	1.5
石部南	2,221	28	1.3
三雲東	2,105	41	1.9
三雲	4,339	90	2.1
岩根	1,950	29	1.5
菩提寺	2,693	60	2.2
菩提寺北	1,795	67	3.7
下田	2,601	53	2.0
水戸	2,451	16	0.7
市全体	22,981	427	1.9



三雲小学校区内の旧東海道沿いをモデル地域として設定

空き家活用後のイメージ写真



地域の活性化や
世代間交流に繋げる

体験の内容

- ▶ ハンドメイド品の販売(高齢者と協働)
- ▶ 陶芸(純粹な体験用)
- ▶ カフェ
- ▶ 映画館
- ▶ お化け屋敷



先行事例 福井県三国町

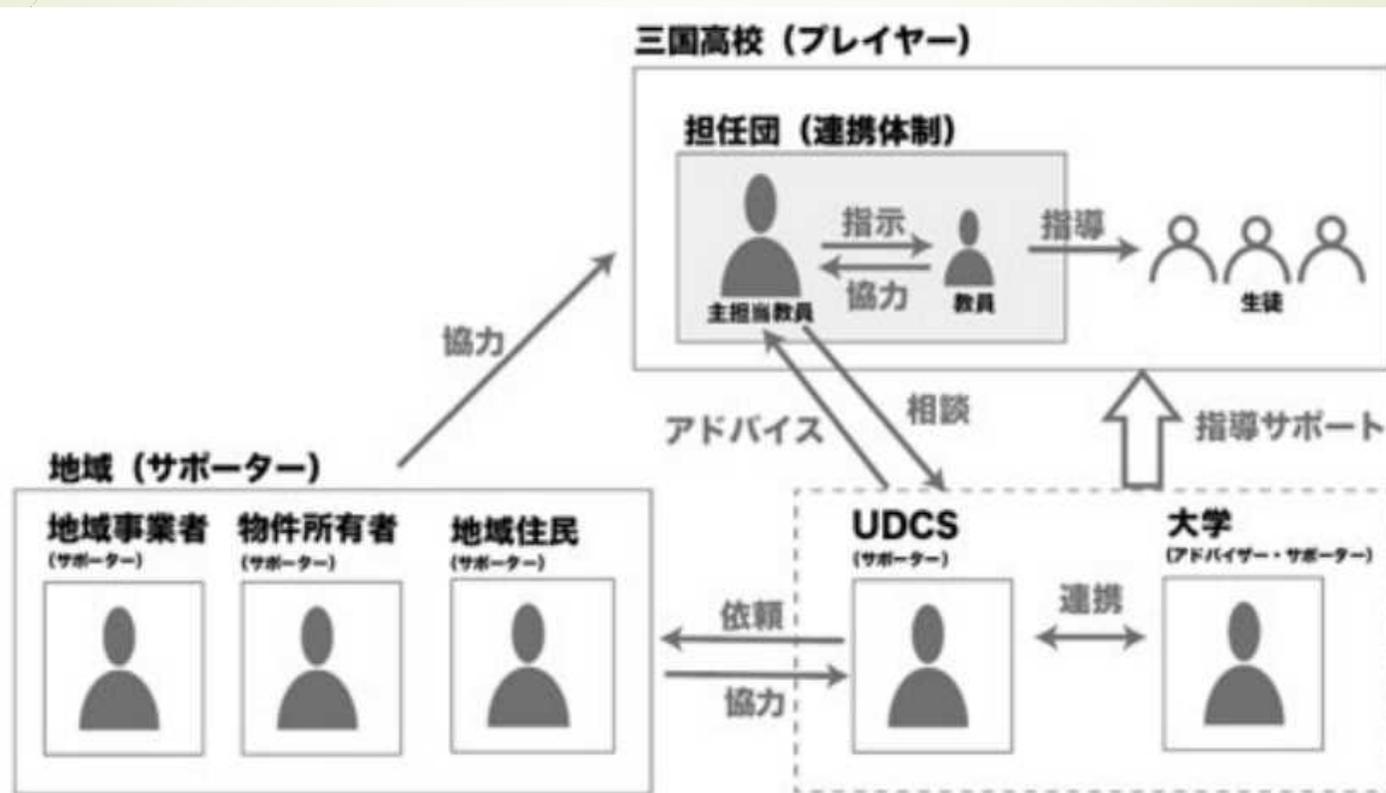


図1 総合学習の連携体制

関係団体



小学生：校外学習にてお客さんになってみる

中学生：職場体験にチャレンジ

高校生：自分たちで一店舗を切り盛りする。相談先は大学生

大学生：本格的な経営と高校生のサポート

まちづくり協議会：運営をサポートしてくれる住民を集める

地域住民：サポートする人、総合学習時には率先して来店

商工会・観光協会：アドバイザー・PR

スケジュール

	1年目	2年目	3年目	4年目
各関係団体と連携	→			
空き家改修	→			
実施計画の策定	→			
財源確保		→		
PR				→



まとめ

- 総合学習を通じて、若者の主体性や課題解決能力を養い、生き抜く力を身に付けてもらうとともに、湖南省への愛着をもってもらう。
- 総合学習のモデル市として知名度を上げる



結論

小中学校といった若い時期から社会活動に取り組むことで、定住意識の醸成につながり、大人になっても住み続けたいと思えるようになる。



出典

文部科学省HP

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/sougou/main14_a2.htm

地域と連携した公立高等学校の 総合学習による空き家活用プログラムの意義と課題

https://www.jstage.jst.go.jp/article/aijt/27/67/27_1458/_pdf

キッズニアシティマップ

<https://www.kidzania.jp/koshien/>



ご清聴ありがとうございました

